The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	<書評会報告>三木英著『宗教と震災一阪神・淡路、東日本のそれから』趣旨説明
Author(s)	白波瀬, 達也
Citation	宗教と社会貢献. 2016, 6(1), p. 77-78
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/55544
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

三木英著『宗教と震災―阪神・淡路、東日本のそれから』（森話社、2015 年）書評会：趣旨説明

白波瀬　達也*

2015 年 12 月 20 日（日曜日）、関西学院大学梅田キャンパスで開催された「宗教と社会貢献」研究会（2015 年度第 2 回研究会）において、三木英氏による単著『宗教と震災―阪神・淡路、東日本のそれから』（森話社、2015 年）の書評会を実施した。

同書は、1995 年の阪神・淡路大震災発生から 20 年の時を経て、宗教が被災地・被災者とどのように関わったのか、また、その経験は東日本大震災へどのように受け継がれたのかを問題の所在にして執筆されている。著者は阪神・淡路大震災後、被災地における宗教の研究を、フィールドワークを通じて進めており、その成果を編著書『復興と宗教―震災後の人と社会を癒すもの』（東方出版、2001 年）などにまとめてきた。

東日本大震災以降、「宗教と震災」に関する調査・研究が活発化しているが、『宗教と震災』は、これらの研究動向にも目配りしながら執筆されている。本書は「宗教と震災」に関する研究を長期スパンで検討するうえで不可欠の内容をもっている。また、被災地にかかわる宗教は、「宗教と社会貢献」研究の最重要テーマのひとつである。以上の理由から、本研究会で書評会を開催するに至った。

登壇者は以下の通りである。

評者：金子昭（天理大学）、齋藤知明（大正大学）
著者：三木英（大阪国際大学）
司会：白波瀬達也（関西学院大学）

当日は次のような段取りで書評会を実施した。まず、司会が書評会の趣旨説明をおこなった。続いて、著者から約 15 分にわたり研究履歴と執筆経緯が述べられた。その後、評者から各々30 分弱のコメントが述べられた後

* 関西学院大学社会学部・准教授・shirahase@kwansei.ac.jp

に、著者からコメントへのリプライがなされた。 その後、フロアからの質問を受け付け、評者・著者・フロア・司会者合わせての活発な議論が行われた。

この書評会報告では、白波瀬の趣旨説明と金子氏と齋藤氏のコメント、両者のコメントに対する三木氏のリプライを掲載した。なお、金子氏は『駆けつける信仰者たち―天理教災害救援の百年』（天理教道友社、2002年）や『驚異の仏教ボランティア―台湾の社会参画仏教「慈済会」』（白馬社、2005 年）の著作を刊行している宗教倫理学者で、国内外の震災支援に関する幅広い見識をもつ。また、齋藤知明氏は宗教教育を専門にする宗教学者だが、東日本大震災以降は被災地支援に関わる宗教者の支援活動に着目した研究をインテンシブにおこなっている。

著者および評者は被災地という共通のフィールドを扱っているが、専門にする学問分野や研究関心には差異がある。異なる研究履歴をもつ二人の評者が本書をどのように論じたのか、また、著者がどのように評者に応答したのか、当日の記録をここに再現した。今後、「震災と宗教」に関する研究は着実に蓄積されていくと考えられるが、この書評会報告が、論点を整理する一助となれば幸いである。